

中間評価（ステージゲート審査）結果

1. 研究課題名： 環境放射線被ばく後の精子形成と次世代影響
2. 研究代表者： 福永 久典（北海道大学 大学院保健科学研究院 准教授）
3. 中間評価（ステージゲート審査）コメント

本課題は、環境放射線被ばくの特徴である空間的に不均一なエネルギー付与分布に着目し、放射線生物学における最も重要な課題の一つである「環境放射線被ばくによる次世代影響の解明」を目標としている。

フェーズ1では、精子形成可視化マウスの作出に成功し、均一照射ながら産仔が得られるなど、当初計画に沿って順調に研究が進展している。また研究成果の社会実装まで意識した ELSI に関する研究も進んでおり、社会的意義も高い。フェーズ2の研究計画においては、フェーズ1で得られた成果に基づき、継続して環境放射線被ばくによる次世代影響の解明を目的とした計画となっている。次世代影響の検討には大規模なマウス実験が必要になるため、戦略的に研究を実施し、国際貢献を含め、当該分野・周辺分野の発展へ寄与する成果の創出を期待する。

以上